

ケータイ化するインターネット 主役はPCからモバイルへ

モバイル端末がインターネットアクセスの手段として主流になりつつある。端末の高度化や無線アクセスの高速・大容量化により、モバイルインターネットサービスもますます進化していく。 文 村上麻里子(本誌) 藤井宏治(ジャーナリスト)

総 務省が2007年に実施した「通信利用動向調査」によれば、個人がインターネットアクセスで利用する端末は、PCが前年比3.0%減少の約7813万人に対

し、携帯電話やPHSなどモバイル端末は同2.8%増の7287万人。また、モバイルからのみアクセスする人は同44.2%の992万人に上った(図表1-1)。過去5年間の増加率を見ると、PC

からの利用は26.8%、モバイル端末からの利用は62.5%と、モバイルによるインターネットアクセスが大幅に増加していることがわかる。

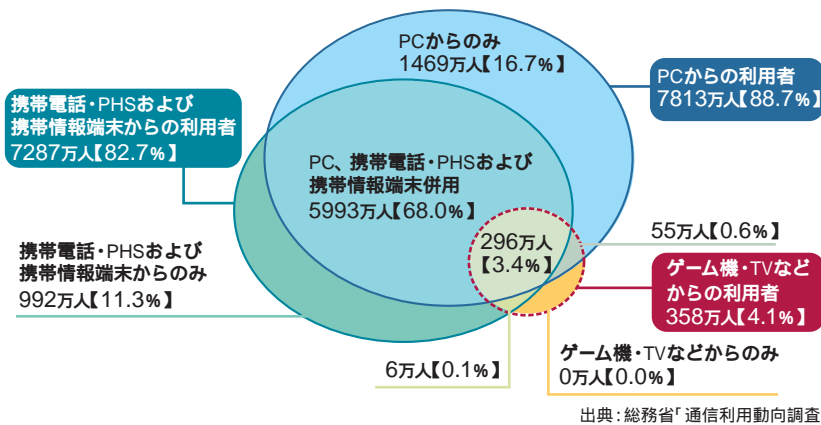
こうした数字を裏付けるように、モバイルビジネスの市場規模も拡大の一途をたどっている。

総務省の「モバイルコンテンツの産業構造実態に関する調査結果」によれば、06年のモバイルビジネス市場は前年比29%増の9285億円。このうち、着うたや着信メロディ、モバイルゲームなどのモバイルコンテンツは同16%増の3661億円、物販やサービスを取り扱うモバイルコマースは同38%増の5624億円となっている(図表1-2)。

例えば、約1400万人の会員を擁するSNS大手の「mixi(ミクシィ)」は07年8月以降、アクセス手段としてモバイルがPCを上回っている。モバイル経由のページビュー(PV)は07年12月の68億PVから08年3月には83億PVとさらに増加傾向にある(図表1-3)。

また、楽天が運営するインターネットショッピングモールサイト「楽天市場」の流通総額は、01年を「1」とすると07年は11.7倍に拡大している。なかでもモバイルによる購入だけを見る

図表1-1 個人のインターネット利用端末の種類(2007年末)



図表1-2 モバイルビジネス市場規模の推移

